

普及活動情勢報告（平成20年6月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

第3回土佐鷹普及推進協議会を開催



6月9日に開催した協議会の内容は、今作の販売状況や来作の栽培予定面積、**土佐鷹**の栽培等の勉強会を含む取り組みなどについて報告が行なわれた。この会は、**土佐鷹**を普及するための各地区での取り組みの違いを、関係機関が情報共有することを目的に行った。

振興センターは、この会でJAや園芸連などが主体的に取り組むために、資料作成や説明などの役割分担を仕向けるように働きかけた。

今後は、来作の販売戦略を立て有利販売につなげるための取り組みについて協議していく。

久府付集落第1回ユズ苗木講習会を開催



5月23日にユズ苗木講習会を行った。今春、久府付集落の基盤整備地には、約1.2ha（6名）の新植があり、苗木から育成するのが初めての方もおり、皆で勉強しながら3年後の収穫を目指すこととなった。当日は、集落外の新植農家、夫婦での参加など11名が集まり、全員の圃場を巡回し、圃場環境（排水、畝立て、草）、病虫害のチェックを行い、すぐにすること、これから行わなくてはいけないことなどを個々にアドバイスした。この後、この会をどのように開催していくのかなどを検討し、振興センターでは、集落営農と絡めて活動を指導・支援していくこととした。

土着天敵の温存に取り組んで ～1年間の総括～



自分自身で経験して、
それを皆で情報共有。
「次の作に活かそう！」

6月13日、初めて集団で土着天敵の温存に取り組んだ安芸市の協働グループが、一年間の総括反省会を開催した。天敵（市販・土着）と害虫の発生密度バランスや、土着天敵に対する防除薬剤の影響などを皆で出し合った。また、アドバイザーとして中央西農業振興センターの松本普及指導員・農業技術センターの中石研究員を招き、それぞれの地域や機関での取り組み等について情報提供してもらった。

今年度、当センター管内では一気に16グループが土着天敵の温存に取り組むことになっている。飛躍的な波及効果は得られたものの、最も重要なのは「いかに最後まで上手く成功させられるか」である。

今後とも振興センターも各グループに対して、指導・支援を行って行く。

地域ぐるみでハスモンヨトウ防除



トラップ製作

地元の農業を知り、害虫退治に一役買ってもらおうと、芸西村の青年農業士連絡協議会や関係機関（振興センター・JA）が中心となり、芸西小学校3年生を対象に、総合学習の時間を利用して、出前授業を行っている。今年は5月23日に、1回目として芸西村の農業や天敵昆虫を使った防除方法についての事前学習を行った。また、5月25日には学校の授業参観日を活用してトラップの作成を行い、親子でのふれあいも行えた。子供たちは持参した土着天敵を興味深げに観察したり、「トラップに入ったヨトウはどうして出ないの?」、「土着天敵の大きさは?」などの質問も聞かれた。

今後は、トラップの設置（9月）、回収・授業のまとめ（11月）を行う予定である。

第1回環境保全型農業研究会開催（安芸市）



5月22日・23日・27日・28日に、安芸市4地区（赤野地区、下山・伊尾木地区、川北・安芸地区、穴内地区）において環境保全型農業研究会（第1回）が開催された。今回は、1年間の生産活動を振り返りながら次年度活動へ反映させる目的で、「こうち環境・安全・安心点検シート」の記入（112戸）を行った。

併せて、振興センターは、新たなエコファーマー申請希望する農家を対象に、安芸市とJAの協力を得て今後農家が取り組む①土づくりの方法、②減化学肥料や減化学農薬への方法を一緒に農家と考え、申請時に必要な「持続性の高い農業生産方式認定申請書」作成を進めた。

その結果、本年度は安芸市4地区で74名の農家がエコファーマーの申請を行い、環境と調和のとれた農業を目指すこととした。